

第5回 豊岡市社会教育基本計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 2024年5月23日（木）午後1時30分開会 2時30分閉会
- 2 場 所 豊岡市役所本庁舎2階 大会議室
- 3 出席者 委員10名
清國祐二委員長、太田博章副委員長、河本純子委員、古林京子委員、
山本朋子委員、西田清委員、宮田索委員、小松和巳委員、小川綾子委員、
木村尚子委員
教育長、教育次長、社会教育課長、社会教育課社会教育係長
- 4 議 事 (1) 報告事項
パブリックコメントの結果について
(2) 協議事項
豊岡市社会教育基本計画（案）について

会議録（要点記録）

注）この会議録は、発言内容を一言一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

1 開会	
2 あいさつ 委員長 教育長	
3 議事 (1) 報告事項 パブリックコメントの結果について	
議長	それでは議事に入ります。 議事(1)報告事項 パブリックコメントの結果について、事務局より説明をお願いします。
事務局	《事務局説明》
議長	パブリックコメントの結果について説明いただきました。市民の方からの意見に対する市の考え方をまとめていただき、すでに公表いただいていると伺っています。その意見と回答について、この後の計画（案）の修正にも関わりますので、ご質問やご意見等がございましたらいただきたいと思えます。
委員	*質問・意見なし
議長	ご意見等はないようですので、このような意見があり、それに対して回答されたということをご承知おきください。 それでは次の協議事項に進みます。
(2) 協議事項 豊岡市社会教育基本計画（案）について	
議長	(2)豊岡市社会基本計画（案）について、事務局より説明をお願いします。
事務局	《事務局説明》
議長	庁内関係部署や教育委員の方々にも丁寧にご意見をお聞きいただきながら計画を修正いただいています。パブリックコメントを踏まえた修正や教育委員の方々からの意見を踏まえた修正をお聞きになられ、ご質問等ございましたらいただけますでしょうか。
委員	前回欠席していましたので、そこで協議があったかもしれませんが、P18「期待される役割」の記載順についてです。最初に「地域住民」を書くのはどうかという意見が以前に出ていたと思いますが、ここは変更しないということでしょうか。
事務局	前回（第4回）の会議時の計画（案）では、「期待される役割」の最初に、行政に【】や■印を付けたらず、行政の役割を記載していました。しかし、行政の役割がわかりにくい、書かれているということが見えにくいといった意見がありましたので、行政にも■記号を付け、他と同じ箇条書きの記載にしました。
議長	主役は地域住民ですのでこれでいいかと思いますが。記載順にはっきりと明確な理由があったかどうかはわかりません。
事務局	記載順については、行政の計画ですので、行政はもちろん役割を担って計画を推進していく立場になります。事務局の中で協議を行い、この記載順にしています。

委員	P11に社会教育がわかるような図をとということで入れられた図についてです。学校運営協議会や地域学校協働活動、これが社会教育を構成するものということで示してありますが、社会教育の定義で「学校教育以外のもの」ということになっていますので、学校を入れるということがどうかと思います。学校運営協議会は地域の方々が集まり、学校をどうして行こうか、どう良くしていこうかという話をされるとと思いますが、このあたりが入れていいのかどうかです。
議長	ご指摘のとおり学校運営協議会は学校運営に関わる協議をすることで、学校経営という枠組みの中にあるかと思いますが、一方で、地域学校協働活動は社会教育の領域ですので、学校教育と社会教育が両輪となってより良い学校を、より良い子どもたちを育てる環境を整えていくということですので、厳密に言うと委員が言われたように地域学校協働活動は入りますが、学校運営協議会を入れるというのは少し微妙なところがあると思って聞いていました。ただ、学校運営協議会は地域とともにある学校を実現する、地域の中にある学校を実現するという点でもありますので、入っていて間違いとは言えない、そのように整理はできると思います。あとは感覚的なもので、入っていても間違いではないです。学校も地域の一員で、学校の教育課程を指していれば間違いになりますが、教育課程に限定された学校運営協議会ではないので、審議事項の中には、例えば、登下校の安全安心をどうするか、これはほぼ地域の問題です。放課後や土曜日の子どもの活動の活動をどうするかということも完全に社会教育です。そういうことも学校運営協議会で協議されます。学校側の立場としていかがでしょうか。
委員	学校を良くしていくために地域の皆さんでということはあるありがたいことだと思います。そういうことを通して地域の皆さんの地域づくりが進んでいく、生きがいになっていくという視点もあるのかなと思います。
教育長	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）自体は学校ですので、学校教育の中でやっていきます。ただし、文科省は「地域学校協働活動と一体的に行いましょう」と言っていますので必ずセットです。合議体のコミュニティ・スクール、実行部隊の地域学校協働活動です。そういう意味で言うと切り離すことの方が理解しにくいのかなという感じがします。コミュニティ・スクールだけですと、言われるように学校長の学校教育方針を承認するという合議体です。一体的に行うのでわざと入れたという、その方が理解しやすいと思います。
委員	違和感があります。教育活動なのかということにもかかってくると思います。
教育長	学校運営協議会は学校経営です。地域学校協働活動は社会教育の分野です。それを一体的に進めるということです。社会教育ですので教育委員会が地域にお願いしている活動、位置づけになっています。
委員	学校運営協議会の一つの目的として、学校の勉強だけでなく、子どもたちにふるさと愛、地域の愛を求めるということもあります。そういう意味でも入れておいた方がいいという思いがあります。
議長	先ほどの委員の発言をお聞きしながら、学校も仲間、味方と考えると、学校が社会教育に関わっているという姿が見えるという意味では、あえて出しておく方がいいかなと思います。厳密にというところを重視するかどうかです。
委員	学校運営協議会、それ自体は学校寄りで、その中の一活動である地域学校協働活動は社会教育の分野ということですね。

教育長	一活動ではなく、全く別組織です。
委員	全く別組織であれば、学校運営協議会は外したらいいと思います。
教育長	一体的に進めるとしているのであえて入れています。その関係をはっきりさせたらいいのかなと思います。
委員	ということであれば、入れることは別にいいですが、注釈で何か入れていただいたら違和感が取れると思います。
事務局	P12下段に注釈を入れています。
委員	学校運営協議会自体は社会教育の分野ではないので、理由を、地域学校協働活動と車の両輪なのであえて記載をしていますという説明をしていただいたらいいと思います。
議長	今の指摘を受けて、記載、追記を検討ください。その他ございませんでしょうか。
委員	P17「施策の実施にあたっては、ニーズとその必要性を精査し」という追記はいいと思いますが、ニーズや必要性というのは何に基づいて判断していくのでしょうか。社会情勢というのは何となくわかりますが、社会教育が何をめざしているのかが書かれていません。何のためにこれをするとか、その判断をどうやってするのだろうかと思います。今まで他の部局でやっていることを精査するということはできると思いますし、何が足りていないとか、ダブっているということは分かると思います。欠けていて、そこはどこかがやらないといけないという判断はどのようにしていくのかと思いました。P11「社会教育の現状」についても、これまでこんな風にやってきたということは書いてありますが、何をめざしていたとか、無かったのだと思いますが、パブリックコメントにも社会教育がほとんどできてなかったとありました。何をめざしていたのかがここを見てもわからない、何をめざすためのニーズを検討するのかというのがわかりにくいと思いました。P14に「社会教育は個人の成長と住民相互の関係性の醸成、社会教育の発展のすべてに重要な意義と役割を持つ」とあり、あえて言うならこの辺をめざしていくとしか読めません。関係性の醸成にはこういうものが必要と考えていけるとは思います。考えていくきっかけになるような、こういうものをめざすとか、こういう教育をして、こういう市民で構成されたまちをつくるとか、どこから読み取ればいいのかと思いました。
議長	理念に位置づけてあるのは「自分づくり・生きがいがづくり・つながりづくり・まちづくり」です。それが一つの大きな指針になりますが、それがあいまいだということであればそうかもしれません。一方で、教育基本法は、教育というのは人格の完成とうたっています。人格の完成とは何かということを規定するのは非常に難しいことで、個人のあるべき姿によって人格の完成の意味するところが異なっていたりすると思うと、私の意見ですが、特定の価値に向かってめざすという方向性を行政が考えるという、そちらの方に違和感を覚えます。それこそ地域住民がそれを作っていつ見える化する方が健全かだと思います。言われていた社会的弱者、福祉の対象者はどうかというような意見は染み入るようなご意見だと思います。そこについては配慮する記述をしていただいています。そこにどう届けるかは考えていただきます。あるべき姿をどう描くかというのは教育計画には馴染まないと個人的には感じています。それが作られるような市民の意見表明ができるような場が必要だとは思っています。私はそのように理解しています。
委員	そこが一番ずっと聞きたかった、疑問に思っていたところで、それが私の一つの価値観であるという認識はあります。それを書き込むことはどうなのだろうか、それを

	<p>すごく遠慮してらっしゃる気がしています。いいことなのか悪いことなのか聞いてみたいなどと思いつつ。昔、偏った価値観ではなく行政の施策としてめざしてもいいものではないかということを知ったことがありましたので。市民がある程度いろんな価値観で、すでにもうバラバラになっているわけです。バラバラになっていくのをよしとするのか、都会だったらそれでもいいかもしれませんが、こういう町でその状態ならいつの間にか人がいなくなって自分の周りのことだけ考えるような人が増えて、まちづくりが成り立たないような気がします。こうでないといけないではないけれど、こうやって助け合うとか、そういう投げかけは誰かがしてもいいのではないかと、それは行政以外できるのかと常々思っています。ほぼ手段で、何をめざすのかよくわからないけれども、ぼやっとつながっているというそういうイメージです。社会教育行政としてやっていくときに、何を価値、判断基準にするのかとすごく思います。</p>
議長	<p>先ほど触れていただいた学校運営協議会は、教育課程にも関わる部分ですので、学校の中で地域を学び、地域の課題を学び、地域の課題解決に自分たちは何ができるのだろうかというようなところを地域の方々と一緒に考えるような、そういう方向になっていますので、そう考えると学校運営協議会と地域学校協働活動は一緒にあった方がいいと思います。バラバラになると言われていて、それは確かに肌感覚としては個別化、分断というものが起こっていると思いますが、それをくっつける役割は、案外、子どもたちがくっつけてくれる、子どもたちの未来のために自分たちが何をやらなければならないのか、その中でニーズを作っていくというようなことは一つあるなと思って聞かせていただきました。そこは他人事ではなくて当事者として考えるのは目の前に子どもがいるからということは大きな推進力になると思います。教育委員会が理念として計画をつないでいく大きな意味があるのかなと伺いながら思いました。先ほど言われた課題認識はまさに共感します。それを打開しないといけない、打開するときに学校に近い社会教育が何か役割を果たせるかなということをおもいました。</p>
委員	<p>バラバラになっていくのを止めるというのは、仲良くなったらいいということではなく、一番まちづくりで大切と思われるのが、課題を共有して、自分たちの問題を自分たちで解決していこうという気持ちやスキルを持った住民が増えてくれるとありがたいですが、自分の課題ならともかくみたいな、地域社会への貢献の気持ちとか、それならそれを、それが必要と書いたらいいと思います。あまりそれが書いてなくて、それを子どもたちに任せる、子どもを使うのは好きじゃない。せつかく教育委員会部局にあるのだから連携はもちろんしたらいいと思います。大人は大人でちゃんと大人の役割として社会を構成して、作っていくというような意識を持った人が少しでも増えるとかそういうのがあったらいいなと思います。</p>
事務局	<p>今回の計画策定にあたり、第1回目の策定委員会でお伝えしましたが、関係部署でそれぞれに計画を策定し取組を進めていて、中には計画がないものもありますが、それぞれで社会教育に関連する、社会教育が含まれる施策を実施している中で、共通した理念がないというところがありましたので、今回、共通する理念を定める計画を策定するというところから始まりました。その基本、参考にしているのが、国が示している「社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」という役割です。それを基に計画を策定するというところでスタートしています。これまでの協議で、豊岡市として、理念は、人づくりではなく自分づくり、さらに生きがいをもって、そして人と人がつながって、まちづくりの力になる、直接的にまちづくりをすること</p>

	<p>は難しいというお話もありましたが、まちづくりの力になるということで、今回、この基本理念「社会教育の学びや活動による自分づくり・生きがいがづくり・つながりづくり・まちづくりの推進」となっています。その点を改めて説明させていただきます。</p>
委員	<p>この点は最初の段階であって、それをもってこれまで意見交換をいただいたと思います。今回の策定委員会も、社会教育に近い、また携わる方々で、いろんな立場の方に集まっていたうえで構成された委員会です。それぞれの立場で思われることを率直に言っていただいたらいいと思います。それに基づいてどのようにするのは最終的に決めていくこととなります。理念についても「自分づくり・生きがいがづくり・つながりづくり・まちづくり」という言葉がその方向性になると思います。これも通り一遍の誰かのためではなく、それぞれの立場でイメージできる、想像できる、そういう言葉にはなっている気がします。自分は、子どもを通してつながりができ、学校とのつながりができました。自分自身も日々の生活の中でもっと自分が良くなりたいという気持ちがありますが、自分だけではなく、例えば、自分が恩返しするところ、場所とか、それが自分は学校とのつながりでした。前社会教育委員長をさせていただいたのも小学校のPTAのつながりがありました。自分の考えですが、いまだに小学校とのつながりがあって、それを通して自分の生きがいにもなっていて、自分の中ではそれが社会教育の一つになっています。皆さんも自分が何かしようと思った時は自分づくりから、それが生きがいになって、人やまちとのつながり、結果まちづくりになるというような、循環というものが豊岡市がめざす柱になっていくということはわかると思います。この資料を見て、ここが不十分だ、ここはどうか、というところはこれからもあると思います。国の方針を柱として、豊岡市としてはこのような形になっています。先ほど補足説明があったように、ある程度これまで意見交換をしてきていますが、気になっている部分もあると思いますので、お話していただけたらと思います。</p>
議長	<p>皆さんの率直な思いを出していただくといいと思います。それがこの計画の修正にすぐに反映されるということではないかもしれませんが、これから5年間は基盤整備の期間となりますので、それにも持ち越せるとも思います。ご意見をお持ちであればお話いただけたらと思います。</p>
委員	<p>先ほど、めざすべき姿、終着点があればいいのではというお話がありましたが、事務局から説明があったとおり、先行する様々な計画があって、この計画はそれを総括、包含する、指針になるような計画ですので、パブリックコメントにも数値目標がないという意見がありましたが、数値目標やめざすべき姿というのは、それぞれの個別の計画の中で、個別計画のめざすべき姿、数値目標を入れられたらいいので、この社会教育基本計画は性質上、そういった終着点ではなくて、あくまでも方向性を示したものの、そういう計画だと私は認識しています。委員が言われたことは、個別計画の中であれば、終着点、めざすべきところは入れたらいいと思いますが、今回の社会教育基本計画は、あくまでも方向性だけを定めればよいと思っています。</p>
委員	<p>先ほどの事務局の説明を聞いて、そうかと思いました。個別計画の点検の時は「自分づくり・生きがいがづくり・つながりづくり・まちづくり」につながっているのかというような点検になるのでしょうか。</p>

事務局	その視点での点検になります。
委員	何か不足していることはないか、どこかと連携しないといけないことはないか、そういう投げかけをしていくということなら何となくわかります。社会情勢やニーズはなかなか難しいと思います。
教育長	新たなニーズは個別の計画の中で探っていく、指標を作って、そのニーズに沿っているのかどうか、その施策がいいかどうかということはやっていかないといけません。全部を包含した根幹は「ウェルビーイング」につきます。ウェルは「良い(Well)」、ビーイングは「状態(Being)」です。ウェルビーイングは、個人の幸せ感だけでなく、団体、社会、組織の幸福感も言っていますので、その両輪で行こうと言っています。全国学力調査で昨年から小学校6年生と中学校3年生に「あなたは幸せだと感じることがありますか」と聞いています。社会教育の計画で、もしも指標を作ったずねるとするなら「あなたは幸せですか」ということを聞くことは可能かもしれませんが。それが終極の目的です。そのために学校は学校教育をやっている、社会教育はどっちの方向に行ったらいいのかというのがこれまで全くなかったもので、それを今策定しています。言っていることは違ってないと思いますし、同じことを言っていると思います。表記としてどうするかということは、これまでの経緯の中で指し示す方向だけにとどめているということです。
議長	ありがとうございました。 いかがでしょうか。ご意見等無いようでしたら、修正の意見も含めて社会教育基本計画(案)を策定委員会としてお認めいただけますでしょうか。
委員	異議なし
議長	それでは、内容以外で確認すべき事項等がありましたら、お聞きしますがいかがでしょうか。
委員	*質問・意見なし
議長	無いようですので議事は終了させていただき、策定委員会での審議は終了させていただきます。進行を事務局へお返しします。
4 事務連絡	
5 閉会	